

二筋道後篇の癖



二以助道後篇廊の序



以ても也谷衆先生の流筆ハ文と云ふ

喜ぶるやと云ふ中より自法知つて

書を不書に達喻述乃教も未達此


危き屏風の中地蒲團は半管也

空^{くう}或^{ある}是^{こゝ}是^{こゝ}是^{こゝ}是^{こゝ}四^よつを之^{これ}合^あ部^ぶり
か^から^ら無^ない^いに^にけ^けた^たに^に死^しす^すに^にむ^むす^す骨^{ほね}お^おに
親^{おや}父^{ちち}の^の披^ひ立^た分^{ぶん}り^り種^{しゆ}の^のを^を患^{うれ}ひ^ひ其^{その}ま^ま
喰^くつ^つめ^めて^て身^みの^の道^{みち}を^を替^かへ^へん^んと
計^{くわ}を^をい^いふ^ふに^にと^と梅^{うめ}暮^{くれ}里^り

親^{おや}方^{ちち}ら^ら彼^{あつ}人^{ひと}の^のあ^あら^ら後^ごの^の道^{みち}
彼^{あつ}を^をし^しり^りな^なす^すに^に側^{わき}觸^ふれ^れは^は話^わ
初^{はつ}り^りも^も是^{こゝ}を^を大^{おほ}き^きと^とい^いふ^ふ
予^よ彼^{あつ}の^の禪^{ぜん}十^{じゆ}を^を脊^{せき}負^おふ^ふに^に衆^{しゆ}人^{にん}
廊^{らう}の^の邊^へ息^{いき}を^をし^し
持^も紐^づの^のひ^ひを^を

新しきものには花より
一寸節ふりて序す

文中軒

此角利述 

序

わがうゝ我浮世にみよふ余も
いふ人の虚工亦中々修削の
胡吹と衛惚けいけ故

之悪愛と 際里 於金す好
 僥倖 成の 南書肆
 換亭 是とくんと
 之ふ 之ふ 何ふ 干時

之受 之受 之受
 之受 之受 之受
 之受 之受 之受
 之受 之受 之受

舞亭
 梅暮里の糸白序



豊川半生



文里と云ふは 文里 アイタ 文里 男の余情集の序も
 うち捨らひ 文里 もふのせうなる 文里 一筋り
 ありれの身 文里 事そた 文里 合方 文里 詞 文里 詞 文里 詞 文里 詞
 因 文里 因 文里 片 文里 片 文里 片 文里 片
 母 文里 母 文里 母 文里 母 文里 母
 事 文里 事 文里 事 文里 事 文里 事
 身 文里 身 文里 身 文里 身 文里 身
 思 文里 思 文里 思 文里 思 文里 思

文里と云ふは 文里 アイタ 文里 男の余情集の序も
 うち捨らひ 文里 もふのせうなる 文里 一筋り
 ありれの身 文里 事そた 文里 合方 文里 詞 文里 詞 文里 詞 文里 詞
 因 文里 因 文里 片 文里 片 文里 片 文里 片
 母 文里 母 文里 母 文里 母 文里 母
 事 文里 事 文里 事 文里 事 文里 事
 身 文里 身 文里 身 文里 身 文里 身
 思 文里 思 文里 思 文里 思 文里 思

下重

下重

あつらん顔がけくも生いゝとそれの懸一うあま

文里 今法事いり物うあまらふいひあひりりて

惚け居りあま事さつみぐ今も通う聖く

身を養うもあういひのあれるむいりてこ

あつらん顔がけくも生いゝとそれの懸一うあま

あつらん顔がけくも生いゝとそれの懸一うあま

あつらん顔がけくも生いゝとそれの懸一うあま

あつらん顔がけくも生いゝとそれの懸一うあま

文里 ア、むりく、今死うあまの松

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '人' and '山'.

おののほろを死で志はぬ焼くせ **巻首** まるく飲守の
之を野山ゆりて夕花あふてはまよあやさ何 **三**
吞イせうと

創よりりあふ **そた** 葉露引を **そえん** 白歌 **そり** 切つる
吞文里ま人のけいせうとさ **そ**

巻首 まるくつるまきせう **文里** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
ぶわら花づるまきやたまののみ **巻首** まるく **巻首** まるく
あふりぬまきや **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく

出ゆく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
とーん **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく

文里 まるく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
まよのの無うものんでく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
何の子のま **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
酒 **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
巻首 **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
巻首 **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく
巻首 **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく **巻首** まるく

終に清もあましむるも二方野節もとらん推小
おろまじりの目見もいれも心つるそそいえな小
二度に葉やで逢へてくればそのまゝ申の
町も出られぬ身よーたゆそれもでまばコアの
けいんとおそろくまをこころまきに来たあのも
このごろにだいがむびりくくまきる志し一葉の
目形がこりけし者がかくはるくも聞かせたこと
おのの心でまやまらくくくあつてあつてあつて

それらけりる若き福だちもぬも何もいませ
ちでいあぐらごもまきをいんもぬもいれも
果心もあまいでまき葉者常取持取へるでいり
てもいんま形りよせうこま糸の毒もあまら
顔をも目ん合せもいれ少つてくまきあひをまき
果心もいれ遠りむむのゆるまあまやアノ如所
あまらうのまきいれまきまきまきまきまき
果心もいれまきいれまきいれまきいれまきいれ

つよまんでみらびられて勉^つたまき^いひる^まい^んと
おと^ろた^ら口^かい^いま^れと^つが^らは^あ男^{おとこ}が^でき^こう^らだ
えん^を物^{もの}を^あき^める^か月^{つき}を^ぞろ^ろと^つて^もつ^て 吾の物^{もの}の
ぬ^あの^うん^が私^{わたし}も^の服^つく^らん^ても^その^うら^い
馬^ばを^あき^める^かと^つて^もい^しう^りで^はあ^きめ^る
い^まま^いす^もこ^だ夜^よ深^{ふか}の^中に^あり^ませ^ん
き^とと^橋を^あき^める^かと^つて^もい^しう^りで^はあ^きめ^る
ん^てま^ら色^{いろ}い^ま物^{もの}で^きん^を 文 理 それ^でも^いは^らる^べい^ふ

おと^ろた^ら口^かい^いま^れと^つが^らは^あ男^{おとこ}が^でき^こう^らだ
えん^を物^{もの}を^あき^める^か月^{つき}を^ぞろ^ろと^つて^もつ^て 吾の物^{もの}の
ぬ^あの^うん^が私^{わたし}も^の服^つく^らん^ても^その^うら^い
馬^ばを^あき^める^かと^つて^もい^しう^りで^はあ^きめ^る
い^まま^いす^もこ^だ夜^よ深^{ふか}の^中に^あり^ませ^ん
き^とと^橋を^あき^める^かと^つて^もい^しう^りで^はあ^きめ^る
ん^てま^ら色^{いろ}い^ま物^{もの}で^きん^を 文 理 それ^でも^いは^らる^べい^ふ

らんふとしらぶ物でお申文おきんの男の目いとしく
ざつてつとぶまやくよの志心でお申せし私よりなる者も
そのくさるすいさどありし志心でありしれたとこの
よあたるすくありても活て居ハ思ひきくせつせん **指**イヤ
おれも何ぞしておるそと席をむざりりりりて雷と川
虎もまじつくせある能てんこのまをといつてざら席の
裏も小を虫も虫とよ字にせしとせつとせしと
席と合合とよ字よらりぬぬおの心ハるる席の

拙者男と物に藝多者ゆきよりよををわけて居
着の虫も虫とよ字にせしとせつとせしと
ぶらぶら **指**せんともいふん—おきんよとせしと
思ハ腹がきく文とせんのみでしるむとあやま
このよとよのよあつてぶらぶらおきん
おとひせんうらむらむら男の志心 **指**おきん
思ひつらつてもたせしとあつてはらあよ好物もあるよ
指 跡のよにせんら—おきんたおらんをを

今より通りかきつて居るのにおもひはくつてのち若界のま
のしんぞおのま

かくくをあし文里がかりーがぬ隣
名代のまこらひとくーしもあくるひよ
顔もらん合え

文里のまのま 下 まのまのま 上 まのまのま
あまのまのま 下 たぐさやま 上 まのまのま

かきつて居るのにおもひはくつてのち若界のま
のしんぞおのま
かくくをあし文里がかりーがぬ隣
名代のまこらひとくーしもあくるひよ
顔もらん合え
文里のまのま 下 まのまのま 上 まのまのま
あまのまのま 下 たぐさやま 上 まのまのま

下

より狭くも
子にたつて
下雲の馬を降さ

海老ハイ情とあゆまうと筆やとゆよつてなれろ
志きんら降る雨さみり

宵日 任侠の寸丹

下筆ハ今ハ文アリト別を引いと筆一の
つらして積とありもこの次はらり

しきくふしと人よきと

うらみの心も文もつてのこい

志きんら降る雨さみり

日比よ室の杉塔をゆらゆらとあそび

舟を歴々と洞をえき美の肴病

花屋おろし人氏傾城愛猫の巻とあははまの歌板で女

解の巻の巻もあそびも後いそそのあそ

きい下だりりまんはもろくよあひりあそび

ほろろ

心も強ひど外にさうとせらるるしき
上り跡を只一むじをりしり

をさぶらげ恨いたるのあたをいんあん

ちんがんを志さうせき生海川

折や一隠居の勤れを

五 離憂の夜飛

一上を、医療をつくせむをきぞくわぶを

日増よなるる無やこの進も念食するも文

病一を癒きた一口はくもとる著のまこえ

を、海して人のんりもあから申も文

るのゆきよのまきさむる運ひの

文の主人私も一をよめりいせうと

何とあまのまの文の主人いあんぬとそん

と、あまのまの文の主人いあんぬとそん

樹ツキのこゝのまゝよふなあん
も文子まんののりよ
とひツキ落しおそぢんまんと

川カハと中ナカは流ながれおちるもまよふま

あゝあゝさうそのよふは流ながてをりしぢん一いちたう

病人びやうじんよまゝいしあ少すくアレ何なにんあは河かのぢんあは文子ぶんし

よあんをまゝ心こころ持もつひりそのまゝいそつてぢんあ

折おく流ながれとあといふまゝもそまゝあゝぢんづそのツキ

流ながれんま物ものとそとくくらまゝいそつてぢんあ

流ながれおらんがーツキ且かつ取とらんもアゝるツキ那なものツキ

た向むかのくふよ思おもつてしつるもぢんあは河かのぢんあ

しやうとつぢん一いちたせあて逢あはれぬツキ樹ツキよ息いきの河か

文子ぶんしまゝんよ河かのぢんあは河かのぢんあ

まゝあもしぢんあは河かのぢんあ

あゝあゝさうそのよふは流ながてをりしぢん一いちたう

風かぜの吹ふくはあゝあゝさうそのよふは流ながてをりしぢん一いちたう

あゝあゝさうそのよふは流ながてをりしぢん一いちたう

契大情買言告鳥

つとめのかひらきまゝに
あひらきまゝに

辛 同二篇廊之櫻

廊のまゝに
あひらきまゝに

酉 傾城買甲子夜話

甲子の夜に
あひらきまゝに

新 契情買中夢之汗

夢の汗に
あひらきまゝに

版 鶴岡北花撰帳

己の志の
あひらきまゝに

退く出来仕ひる由求馬鏡人可結る

